

2020 年度 学校関係者評価委員会報告書  
および改善方策  
(第 2 回)

学校法人 東京滋慶学園  
ベルエポック美容専門学校

2020年10月13日

## 2020年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録

作成者：ベルエポック美容専門学校 東

日時：2020年10月13日（火曜日）10:00～

場所：ベルエポック美容専門学校 第1校舎 201 教室

参加者：＜委員会メンバー＞

村橋 哲矢 様：団体関係者 東京都美容衛生同業組合 専務理事  
雑賀 英敏 様：業界関係者 トニーアンドガイ ジャパン 代表取締役  
青山 清志 様：卒業生代表 アヴェンツファウンデーション 店長（欠席）  
大河 光太郎 様：業界関係者 ネイヴィル 代表  
西村 尚美 様：保護者代表  
倉澤 弘明 様：高等学校関係者 第一学院高等学校 教務 ICT 支援室 室長  
小泉 由梨 様：地域代表 穂伝表参道町会 会長  
松永 英樹 様：業界関係者 アビー代表取締役

＜事務局メンバー＞

岩村 勇 ：学校法人東京滋慶学園 評議員  
大谷 啓一 ：ベルエポック美容専門学校 学校長  
三井 真以子：ベルエポック美容専門学校 事務局長  
藤本 拓也 ：ベルエポック美容専門学校 事務局次長  
黒崎 洋平 ：ベルエポック美容専門学校 教務部長  
岩本 賢矢 ：ベルエポック美容専門学校 美容師科学科長  
菊地 慶 ：ベルエポック美容専門学校 トータルビューティ科学科長  
今井 香菜子：ベルエポック美容専門学校 ヘアメイク科学科長  
加藤 真也 ：ベルエポック美容専門学校 美容師科通信課程学科長  
藤井 美江 ：ベルエポック美容専門学校 広報センター長  
川畑 誠 ：ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター センター長  
東 健一 ：ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター センター長

＜委員会開会宣言＞

藤本：今回は新型コロナの影響を考慮して zoom を利用した遠隔会議を実施します。

＜学校長・学校責任者挨拶＞

大谷：本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

委員会では皆様の忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

本日は、よろしく願いいたします。

三井：お忙しい中ご参集いただきありがとうございます。

3 か月ぶりの実施となります。前回の委員会直後に本校の学生が新型コロナウイルスに罹患した

学生が発生しました。

本校の対応についてご報告申し上げます。

- ・ 前回会議終了後の夜に当該学生（新型コロナウイルス罹患学生）から発症報告があった。

↓

- ・ 他学生に関して感染するリスクは低いという保健所の判断のもと、学校閉鎖にまでは至らず、開講（学生の登校はせず遠隔授業で実施）している。

保健所への報告などで学校として対応しなくてはならないことが、いろいろと知ることができた。新型コロナウイルスに罹患しないようにするために、個々の感染予防、感染防止が重要であることが分かった。

<学校関係者評価委員会概要説明（本校重点目標含む）>

藤本：※学校関係者評価委員会の開催概要について説明。

- ・ 学事報告
- ・ 学校重点目標の説明

<学事中間報告>

#### ■広報

藤井：広報目標 400 名のところ、現状 430 名の入学予定。

詳細報告を行うと美容師科が目標 160 名に対して 158 名となっているが今後の入試によって目標達成できる予定。

新型コロナウイルス対策としての広報活動として遠隔説明会や学外会場ガイダンスを実施した。これからの課題として高校 2 年生の集客に注力したい。こちらについても遠隔情報提供なども積極的に利用しながら実施していく。

YouTubelive などが好評。

#### ■教育

黒崎：教育目標は退学率 5.8%を追っている。学生実数で 50 名となる。現状は、15 名が退学をしている。

退学理由としては「体調不良」が多い。

現時点では今年度の退学者数の目標は達成できる見込みである。

新型コロナウイルス対策として授業の実施は遠隔授業を取り込んでゴールデンウィーク後から実施している。

ソーシャルダンスに関する対策は、学生・講師のフェイスシールドの着用や個人間の距離の保持、昼食時のルールなど保健所から評価を受けている。

新しい学びの仕組みとして、次年度より WEB 端末の利用を実施する。WEB 学習システムなども新規導入する。

ICT を学習に活用することに注力していきたい。

## ■就職

川端：今年度7~9月期の就職状況について報告する。

今年は新型コロナウイルスの影響で就職内定が鈍くなっているが、徐々に内定数は増えている。企業などの採用活動はオンラインを利用したハイブリッド型の採用様式をとる会社が増えている。

また、学生に関しても自身のポートフォリオを作成しており内容についても充実している。就職活動に必須のアイテムとなりつつある。

美容サロンについては採用件数が徐々に上がっているが、企業については採用計画を見直しが多く、実質的には採用見送りとなっている。

### <委員意見>

村橋：学事報告に関して思ったことは、教育のデジタル化の対応は知りうる学校の中では一番早いと思う。この手の部分は過渡期となっているのでどこまでやるのかという線引きが不透明なのでこのさき半年程度で明確化できるとよいと思う。

雑賀：教育のデジタル化のスピードに関心を持った。学校によってはデジタル化ができていない学校もある。実務は対面の仕事となるので、デジタル（非対面）とのギャップが今後の課題になると思う。

松永：教育分野でオンラインを取り入れたことで、学生の声比以前に増して活発化してという事例もあるようだが、美容は直接的なコミュニケーションが必要となる職種である。

大河：ベルエポック美容専門学校の学習方法の変化対応のスピードは評価できる。学生の授業の参加度合いが気になるところである。ここが学生平等にできればオンラインは新しい学習の方法として確立できると思う。

倉澤：前期の振り返り（学事報告）から自信をもって学校運営されていることが伝わった。退学率の例年との変化（今年度、好転した理由）は何が要因となっているのか？

黒崎：新型コロナウイルスのためオンライン授業を実施したため、一部学生にとっては授業に出やすくなったのではないかと思っている。また、学生自身が自ら考え行動する「自己変革型人材の育成」を掲げており、その仕掛けとして「クラス会議」を取り入れている。日々の事象を元に問題解決をするということを行っている。テーマ選定によっては小学生向けの内容になることもあるが、人間性の醸成には役立っていると思っている。

倉澤：高校ではオンラインにより不登校の概念はなくなると思っている。クラス会議などは高校の生徒指導にも役立つと思われる。

授業のデジタル化は授業を「個人のもの」とすることができるので反復学習などに役だと思う。一部、小売店舗がECサイト（オンライン販売）を実施するようになっている。業態の規定枠を超えて様々な取り組みを行っている会社が増えている。

三井：今年度は対面コンテスを今年度はデジタル化しオンラインで実施しようとしている。実務担当者の菊地より概要を報告する。

菊地：11月10日にYouTube live を利用したコンテストを実施する。地方グループ校の学生が本校に参集することなくコンテストを実施する。

西村：リモートでの授業実施はよかったが、受け手である学生がきちんと聞いているかが不安。就職活動についても技術についていけないのではという不安がある。

三井：国家試験という点では、今夏の家試験の取り組みについて加藤より報告する。

加藤：今夏の家試験結果は100名以上受験の学校では全国で一番の合格率であった。学生の出席率が合格率に反映されている結果となっている。

三井：学習面、就職については学校として全学生に対してサポートしていく。特に学科の説明について岩本より報告する。

岩本：今年度は様々不慣れなことを強いられていることが多いが万全のサポート体制をとっているため、今後もこの体制は継続するので安心して任せてほしい。

小泉：ベルエポック美容専門学校のデジタル化については、導入期は学生、学校ともに戸惑いがあったかと思う。デジタルツールの利用は社会の環境に応じて素早く対応ができることが利点であると思う。とはいうものの外出したいという欲求は潰えていない。

三井：本校でも小学生に対して職業体験の一環として美容体験を実施した。詳細を藤本から報告する。

藤本：2日間で70名の小学生に対し、カット、セットといったプロの美容技術を体験していただいた。

岩村：本日は委員の皆様、ご参集いただきありがとうございます。

業界委員の方のご意見により美容に関してはオンラインにとって変えられないことであることを改めて強く思った。オンライン教育に関しては仕事の効率化のためではなく学生のためになるよう尽力していく。

また、校舎が手狭になったので、校舎の取得をしている。年明けにはお披露目ができるように準備をしている。

卒業生に関してもそのつながりを強化できるよう新たな取り組みを考えている。

大谷：委員の皆様、貴重なご意見、ありがとうございました。